

# 社会科 学習指導案

授業日 令和4年8月22日 2校時  
 学習者 4年3組 39名  
 授業者 佐々木 麻衣

## 1. 単元名「自然災害からくらしを守る」 風水害からくらしを守る

## 2. 単元の目標

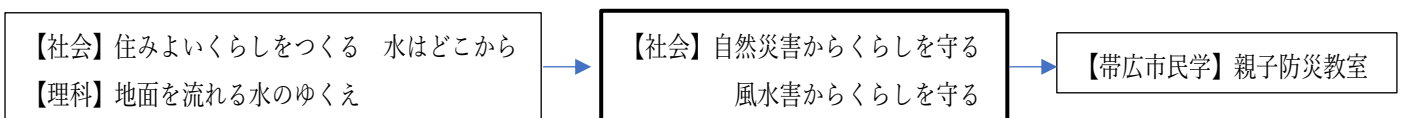
自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、地図で調べたり、防災教室での体験から、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え表現したりすることを通して、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な備えをしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を探求・解決しようとする態度や、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることを考えようとする態度を養う。

## 3. 単元の評価規準

知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などについて、地図で調べたり、防災教室で体験したりして、必要な情報を集め、読み取り、災害から人々を守る活動を理解している。	・過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動について考え表現している。	・学習したことを基に、自然災害からくらしを守る地域の取組や、日頃から自分たちにできることを考えようとしている。

## 4. 単元計画と学習評価（全5時間）

時	学習内容	主・対・深	学習評価（知・思・主）〈方法〉
1	・資料から平成28年の台風による水害に興味をもつ。	 興味や関心を高める	・帯広市の水害について興味・関心をもつ。 (主) 〈発言・ワークシート〉
2 (本時)	・大型地図で札内川流域を捉える。アクティビティを通して、どのようなところで水害が起きるのかを考える。	 共に考えを創り上げる	・アクティビティを通して、川の水はいろいろなところから集まってくる「流域」の考え方を認識し、水があふれるところはどんなところかを考えている。 (思) 〈発言・ワークシート〉
3 ・ 4	・水害からくらしを守るために、自分達にできることについて体験を通して考える。 (帯広市民学「親子防災教室」)	 多様な情報を収集する	・水害に対する地域の関係機関や人々の備えや、対処について理解している。(知) 〈発言・ワークシート〉
5	・自然災害からくらしを守るための、自助・共助・公助について振り返る。	 自分の考えを形成する	・学習したことから、自然災害からくらしを守るために自分達にできることを考え表現している。 (思・主) 〈発言・ワークシート〉



## 5. 本時のめあて

ボールを雨に見立てたアクティビティを通して、川の水がいろいろなところから集まってくる「流域」の考え方を認識し、水があふれるところはどんなところかを考える。

## 6. 身に付けさせたい力と手立て

	キャリア教育の視点から	教科・領域の視点から	研究の観点から
目指す姿	調べて得た情報を整理し、自分達のくらしと結び付けて考えたことをまとめ、表現する。	水害が起こりそうなところを予測し、防災の必要性を考える。	共に考えを創り上げる
手立て	自分達のくらしと結び付けて考えていけるよう、帯広市の水害の資料や地域の川を取り上げる。	地域の大型地図やハザードマップを活用する。	自分達で選択した既習知識や方法を活用して課題を解決する。

## 7. 本時の学習展開 (2/5)

	児童の学習活動	評価□・留意点※
導入 5分	<p>○H28年の帯広市の水害を想起し、機関庫の川でも水害が起きるのかを考える。</p> <p>機関庫の川の水はどうなるだろうか。</p> <p>課題 どのようなところで水害が起きやすいのか調べよう。</p>	<p>※災害時の写真や動画を提示する。</p>
展開 30分	<p>○大型地図で機関庫の川を探し、十勝川までをたどる。</p> <p>○川に集まってきた水はどうなるか考える。</p> <p>○1つ目のグループがアクティビティ「ちりも積もれば」(プロジェクト WET⇒注)をする。 地図上の川の上に立つ児童が、雨に見立てたボールを持ち、上流からボールを手渡していく。合流地点や下流の児童は、ボールを手に持ちきれなくなることから、「流域」を認識し、水害が起こりそうなところを考える。</p> <p>ボールが水だったら!?</p> <p>○2つ目のグループがアクティビティをする。</p> <p>川の水があふれるのは、どんなところだろう。</p> <p>○ワークシートに①川の水があふれそうなところとその理由 ②その他気づいたことを記入する。</p> <p>○全体で交流する。 「川と川が合流しているところ」「下流の方」</p> <p>他に川の水があふれそうところはあるかな。</p> <p>○川が氾濫しそうなところを予想し、ワークシートに印を書く。</p> <p>○地域のハザードマップを見て、どこで水害が起こりやすいかを知る。</p> <p>まとめ 川の近くや合流地点で水害が起こりやすい。</p>	<p>※機関庫の川が売買川、札内川、十勝川と合流していることを確認する。</p> <p>※理科(雨水の行方)の学習と関連付ける。</p> <p>※4つの川で帽子の色を変える。</p> <p>※アクティビティを2度繰り返す。</p> <p>※川の水があふれ、水害を引き起こすことを確認する。</p> <p>□アクティビティを通して、どのようなところで水害が起こりそうかを考えている。 (思)〈ワークシート・発言〉</p> <p>※地図上にハザードマップを重ねる。</p>
終末 10分	<p>本当にこんなことが起きたら、どうしますか。</p> <p>○学習の振り返りを行う。 アクティビティや資料、友達の意見を基に水害と自分達のくらしについて考えたことをまとめる。</p> <p>○次時への見通しをもつ。</p>	<p>□水害が身近であると実感し、防災の必要性について考えている。 (思)〈発言・ワークシート〉</p> <p>※帯広市民学「親子防災教室」へつなげる。</p>

⇒注 「プロジェクト WET」は、水や水資源に対する知識・理解を深め、責任感を促すことを目標として開発された、世界66か所の国と地域で活用される体験型の「水」に関する環境教育プログラム

### 【助言者よりメッセージ】 神永 典郎 先生 (白百合女子大学 人間総合学部 教授)

本時では、地域を流れる機関庫の川を地形面から立体的にとらえられるように大型地図が用意される。子どもたちがこの地図を目の前にして地域の様子をとらえて水害可能性を考え、どのように自分達の問題として水害への備えや対策について課題意識を高めていくかに着目していきたい。

### 荻原 彰 先生 (京都橋大学 発達教育学部 教授)

雨水の行方について出された子どもたちの意見をアクティビティに生かしていけたらよい。また、地域のハザードマップを見たときに、川が氾濫しやすい場所の地形的な特徴を捉えることに加えて、自分達の予想と反した場合には、「どうしてだろう」と考えることを出発点にして、次時からの防災教育に繋げると深まりのある授業になる。